

総合病院国保旭中央病院で診療を受けられる患者さんへ

総合病院国保旭中央病院では、以下の研究を実施しております。

研究の対象になる可能性がある患者さんで、診療情報が研究目的で利用されることを望まれない方は、下記のお問い合わせ先にご連絡下さい。

1. 研究課題名

質管理の方法を用いて、外科手術を質改善することは可能か

2. 研究の対象患者

旭中央病院でヘルニア手術・胃癌手術・結腸癌手術・直腸癌手術を施行された患者さんを対象とする。また、当院外科スタッフを対象とする。

・選択基準

以下の基準を全て満たす患者さんを対象とする。

- 1) ヘルニア手術・胃癌手術・結腸癌手術・直腸癌手術を施行された患者さん
- 2) 年齢不問
- 3) 性別不問

当院外科スタッフについては、研究期間内に在籍したスタッフ、アンケート調査に回答したスタッフを対象とする。

・除外基準

以下のいずれかに抵触する患者さんは本研究に組み入れないこととする。

- 1) ヘルニア手術・胃癌手術・結腸癌手術・直腸癌手術に対し、標準と異なる過大な術式を実施した患者さん

3. 研究の対象期間

2015年1月1日～2018年12月31日

4. 研究の概要

平成28年7月に群馬大学から公表された医療事故調査報告書では『日常的な診療の質評価への取り組み』が提言され、日常診療の質管理の重要性が指摘された。しかし、日常診療の質管理・質改善の活動報告は多くはない。「ASUI SHI プロジェクト」で習得した質改善の手法を用いて、手術という日常診療の質評価を行い、手術を改善させることをテーマとした。

当科は、一般外科の医員約20名の地方の教育病院である。教育対象の5年目以下の若手外科医が半数を占める。5-10年目の中堅医師は医局人事で2-3年で異動する。結果、幹部以外は数年で入れ替わるため、手術の質を維持する対策が必要である。

手術の延長は合併症の増加に繋がるとされ、患者安全の観点から一定の時間内に終了することが望ましい。このため、手術時間を本検討のindicatorとした。

研究期間内に、当外科は手術の質管理を行った。この質管理の下で手術時間が、患者パラメーターおよび、外科医の意識変容とどのように関連するのかを検証する。

5. 研究実施予定期間

2019年11月20日～2020年3月31日

6. 研究に用いる試料・情報の種類

年齢、性別、術式、手術時間、出血量、在院日数、合併症、手術死亡
外科としての活動記録、スタッフのアンケート結果

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保証に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出下さい。その場合でも

患者さんに不利益が生じることはありません。

(連絡先) 地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院

・ 研究責任者： 外科 小池大助

・ 臨床研究支援センター

電話：0479-63-8111(代)